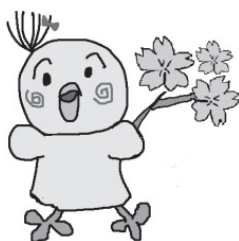


園内研修実践事例集

— 「自分たちでできる研修ガイド」を活用して —



平成29年3月

栃木県総合教育センター幼児教育部
栃木県幼児教育センター

はじめに

幼児教育の振興については、平成27年度からの「子ども・子育て支援新制度」の実施に伴い、全ての子どもが健やかに成長するよう、質の高い教育を提供することが一層求められるようになりました。

幼稚園等では、教職員一人一人の資質・能力の向上とともに、園全体で適切なカリキュラム・マネジメントを実施していくことが極めて重要となってきました。特に、幼稚園等におけるカリキュラム・マネジメントは、「園目標達成のために必要な具体的なねらいや内容の検討」、「教育課程におけるPDCAサイクルの確立」、「教育活動に必要な人材、物的資源等の効果的な活用」という、三つの側面から捉える必要があります。こうしたカリキュラム・マネジメントを園全体で実施していくためには、教職員相互の意見交換や、テーマに基づく研究の実施など、園内研修の継続や充実を図ることが不可欠となります。

本県では、「栃木県教育振興基本計画 2020－教育ビジョンとちぎ－」（平成28年2月 栃木県教育委員会）の基本施策の一つに「幼児教育の充実」を掲げました。「幼児教育と小学校教育の連携の深化・拡充」、「教育・保育の質の向上」、「幼児期の子どもを持つ保護者への支援」を三つの柱として、組織マネジメントやカリキュラム・マネジメント等に関する研修や事業、園内研修を行う幼稚園等に対する支援を一層充実させたいと考えています。各幼稚園等においては、園内研修の機会を確保し、幼児教育の質の向上に努めていただけたら幸いです。

本冊子は、「自分たちでできる園内研修ガイド」（平成28年3月 栃木県幼児教育センター）の「園内研修の流れ」に従った実践事例をまとめたものです。子どもたちは個性的であり、実に多様なため、時には、指導が困難な場面に遭遇することもあるでしょう。しかし、教育のプロである以上、子どもたちの無限の可能性を信じて子どもたちに愛情を注ぎ、一人一人の良さを伸ばすための教育に尽力してほしいと思います。そして、様々な課題を解決するためには、園内研修の果たす役割は大きいと考えます。本冊子が、「自分たちでできる園内研修ガイド」と併せて、各幼稚園等において、園内研修を企画、運営する際の一助となることを願ってやみません。

最後になりましたが、本調査研究を進めるにあたり、御協力をいただきました委員の方々に対し、厚く御礼申し上げます。

平成29年3月

栃木県総合教育センター所長

軽 部 幸 治

目 次

はじめに

I 調査研究の目的	1
-----------	---

II 実践事例

は「自分たちでできる研修ガイド」の手法です。

1 日の研修



実践1 幼児理解を深め、保育を見直す	2
～視聴覚教材を活用した保育研究の在り方～（認定こども園愛泉幼稚園）	

「その1 保育研究」「その3 視聴覚教材の活用」参照

実践2 環境構成による遊びの展開と子ども同士の関わりについて	6
～ワールドカフェ形式の工夫～（幼保連携型認定ひばりこども園）	

「その1 保育研究」「その4 ワールドカフェ」参照

実践3 子どもの育ちの共通理解と援助	10
～各学年の事例を集めて～（風と緑の認定こども園）	

「その5 事例研究」参照

実践4 子どもの育ちを見通して保育を見直す	14
～小学校との連携～（那須烏山市にこここ保育園）	

「その8 小学校教員の活用」参照

1 年間の研修



実践5 「生き生きと元気に遊ぶ子」を求めて	18
～子どもの姿を通した教育課程の見直し～（那珂川町立ひばり幼稚園）	

「その1 保育研究」「その5 事例研究」参照

3 年間の研修



実践6 発達に応じた教育環境を整える	22
～園の教育課題の解決～（瑞穂野保育園）	

「その1 保育研究」参照

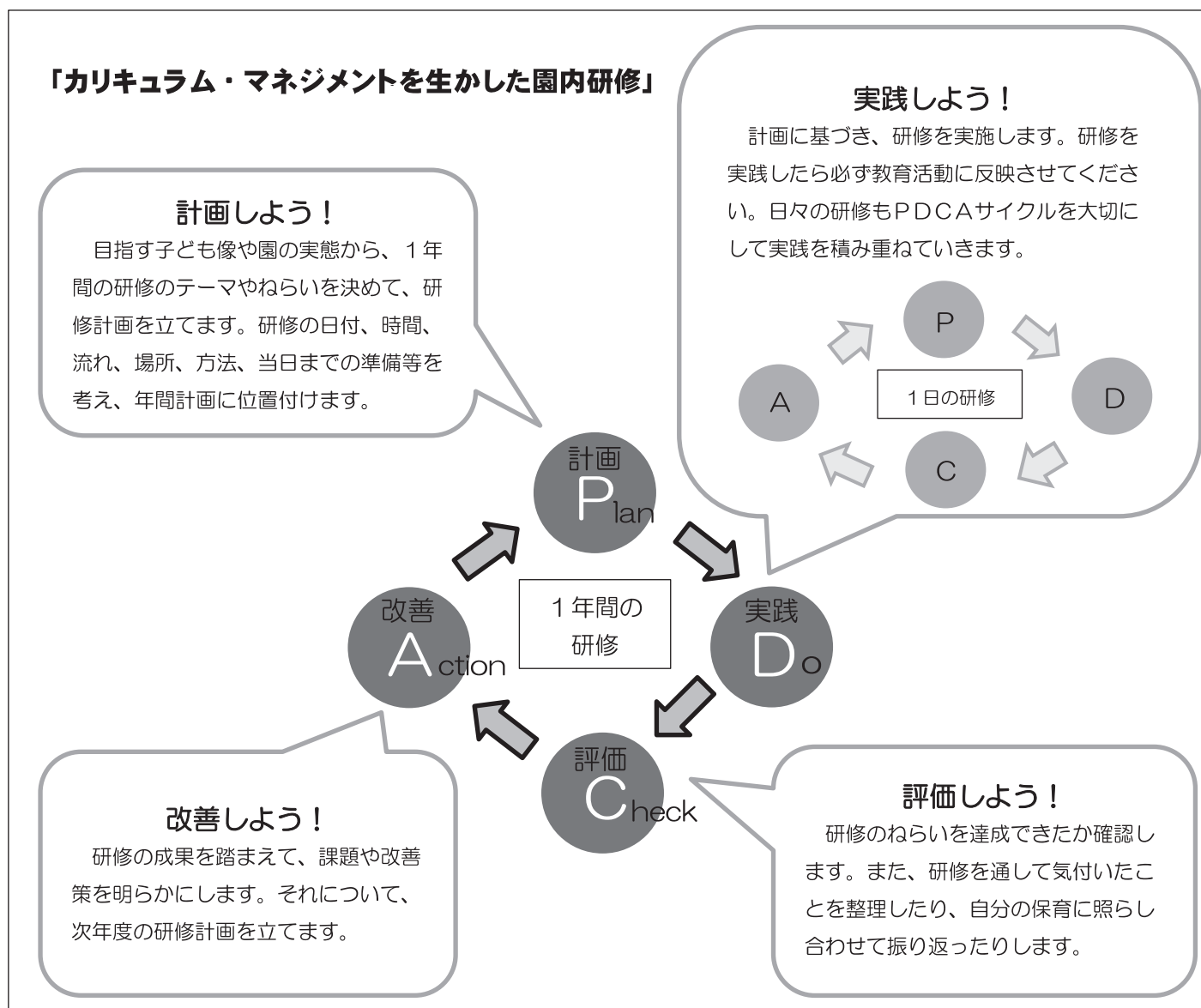
おわりに

I 調査研究の目的

園内研修は、園が目指している子ども像に向かって、教職員が同じ思いで教育活動を展開するために必要であり、計画的・継続的に行うことが大切です。

また、園内研修を実施した後は、研修のねらいに対して自分自身の取組を振り返り、評価し、これまでの教育活動や園運営などに反映させ、教育課程や園の組織体制の改善を図らなければなりません。

下の図のようなサイクルの中で、園内研修を継続して行くと、教職員一人一人の資質・能力はもちろん、園全体の組織力が向上します。多忙な日々を過ごす教職員にとって、園内研修の時間を生み出し、継続的に実施するのは容易なことではありません。しかし、幼児教育に求められる使命を果たすために、工夫しながら園内研修を実施し、実践を積み重ねていくことで、その効果が実感できることでしょう。



本冊子は、「自分たちでできる研修ガイド」を活用し、カリキュラム・マネジメントに沿った園内研修を実践し、まとめたものです。1日の研修、1年間の研修、3年間の研修の実践事例を掲載しました。各園の課題や実態に合わせて、本冊子を参考にしながら、園内研修を企画・運営して、教職員の資質・能力、園の組織力を向上させてください。

Ⅱ 実践事例



実践 1

認定こども園愛泉幼稚園

幼児理解を深め、保育を見直す

～視聴覚教材を活用した保育研究の在り方～

○研修テーマ設定の理由 ～現状と課題を洗い出す～

数年前より保育の写真を使った園内研修を行っていたが、動画を使って研修することで、子どもの動きがより分かりやすくなり、様々な視点から話し合いができるのではないかと考え、研修を行った。同じテーマで保育の動画を視聴し、経験年数にかかわらず話し合い、自分の保育に置き換えて考えることで、幼児理解が深まり、保育者の資質向上につながるのではないかと考えた。

○研修の概要 ～研修の計画を立てる～

研修ガイド手法その1（P1）とその3（P3）を参考に実施した。副園長が撮影した動画を、全員で視聴して、子どもの姿を視점에協議をした。その後、大切にしたい保育環境や援助の方法を考え、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説を使って、改めてねらいや内容を確認し、全員で共有した。

所要時間 60分	（ねらい） ・ 幼児理解を深め、幼児にふさわしい環境や援助を考える。	
時 間	内 容	配 慮 点
事 前	○副園長が保育の場面の動画を撮影する。 ○主任が中心となって、事前に研修テーマや内容を話し合っておく。	・ あらかじめ撮影した動画を編集し、場面を選んでおく。 ・ 視聴する動画は長くなりすぎないように配慮する。
5分	○研修のねらいを確認する。	・ 経験年数が偏らないようにグループ編成をする。
20分	○動画を視聴する。 ○視聴しながら、子どもの姿を視점에、気付いたことや意見を付箋紙にメモする。 ※場面 ①	・ 動画を視聴する視点を明確にする。
10分	○付箋紙を貼りながらグループ内で自分の意見を発表し、同じ意見をまとめる。 ○各場面での環境構成や教師の援助についてグループ協議をし、大切な保育のポイントを導き出す。 ※場面 ②	・ 経験年数にかかわらず、必ず全員が意見を言うようにする。
10分	○導き出したポイントを幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説と照らし合わせて、領域やねらい、内容をグループごとに確認する。 ※場面 ③	・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説を用意する。
5分	○グループごとに発表し、全員で共有する。	
10分	○振り返り	

○研修の実際 ～研修を実践する～



※場面 1 付箋紙にメモをしながら動画を視聴する。

副園長が撮影した動画を、全員で視聴し、担任がその場面の補足説明をする。



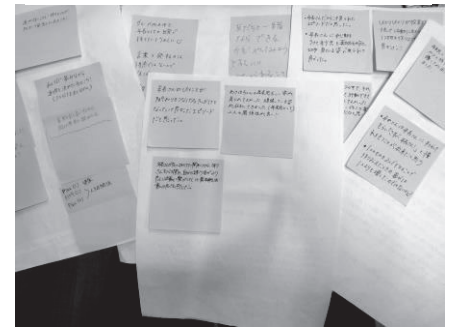
〈動画を繰り返し視聴している様子〉



〈グループ協議の様子〉

付箋紙は2色準備し、ピンクは疑問、緑は共感したことを記入する。批判や助言だけにならないように留意する。

同じ意見をまとめ、これに基づいて話し合うと効果的である。



〈意見を記入した付箋紙〉

※場面 2 環境構成や援助についてグループ協議をする。



〈自由に意見交換をしている様子〉



〈自分の保育を振り返る様子〉

★協議によって導き出されたポイント

環境構成のポイント

幼児の興味・関心に合った素材を選ぶこと。

援助のポイント

幼児の考えや思いに気づき、認めながら一緒に遊ぶこと。

動画がなくても、日頃の保育記録写真を使って、同じような研修を行うことができる。



〈日頃の保育の記録〉

※場面 3 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説で確認する。

この場面って5領域のどこのことなの？

一つの遊びなのに、いくつもの領域にも関わっていることを再確認したね。



〈要領と照らし合わせている様子〉

要領の発達の姿と園の子ども姿が同じで安心しました。

何気なく保育をしていたけど、こんなに深い意味があったとは！

○研修の振り返り ～研修で学んだことを整理する～

評価しよう！

指導計画と子どもの姿が
つながりました。
(新規採用保育者)

同僚が共感してくれたことで、
自分の保育に自信が持てました。
(3年目保育者)

他の先生から多様な意見が
聞けたので、それを保育に取り
入れてみようと思います。
(年中担任)

5領域を意識して、明日
の保育を変えてみようと思
いました。
(年長担任)

保育内容を言葉で説明
するのは難しいけれど、
大切なことですね。
(年少担任)

保育に対する不安を一人で抱え
込まずに、意見交換をすることが
できるようになりました。
(年中担任)

Aちゃんの育ちを担当とは
違った角度から見てくれる先
生がたくさんいて、安心しま
した。
(新規採用保育者)

〈園内研修で実践と理論を結び付けている様子〉

動画を視聴したので、子どもへの関
わりを冷静に振り返ることができま
した。(5年目保育者)

動画で振り返ると、みんなで保育の場面が共有
できるので、より深い幼児理解ができと思
いました。
(主任保育者)



保育者が気付いた！



- ・ 幼児理解に基づいた適当な環境構成や援助の在り方
- ・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説を読み込むことの重要性
- ・ 同僚性を生かした幼児理解や保育の計画の必要性



○研修後の改善 ～実際の保育や指導計画に生かす～

指導計画（日案・週案）の内容を見直し、研修で学んだ内容を盛り込む

子どもの姿をいろいろな視点から理解できるようになったので、指導計画の幅が広がった。子どもの姿、気付きなどを、直接、日案や週案に書き込み、次の計画に生かすようにした。

担任一人ではなく、チームで計画を立てる

保育者自ら、工夫して時間を生み出し、打合せをして計画を立てるようにした。同じ学年だけでなく、異年齢のつながりを意識しながら保育を構想するようになった。

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説のねらいや内容、内容の取扱いを確認する

5領域をより意識するようになり、実際の保育とつなげて考えられるようになった。研修で、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説を読み込んでいるので、子どもの姿を保護者等に的確な言葉で伝えられるようになった。

○新たな課題の整理 ～次の計画へつなげる～

- 保育記録としての動画の保存・活用
園内研修で使用した動画を園内研修の記録と共に整理して保存し、保育記録として活用できるようにしたい。
- 教育課程の見直し
園内研修で導き出した保育のポイント等を教育課程に反映させていく。
- 近隣の園との合同研修
近隣の幼稚園、保育所、こども園を自園の園内研修に招いたり、他園の公開保育に参加したりして、教育・保育の質を向上させたい。
- 小学校との合同研修
小学校の授業参観や授業体験をして、小学校教諭と協議を行い、幼児期から児童期の学びについて理解を深める研修を企画したい。



執筆者から一言！

講話型の園内研修を見直して、参加型にしてからは、保育者同士が互いの考えを理解しようとするようになりました。担任が子どもに寄り添う保育をしても、他の保育者にはなかなか意図が伝わらないこともありましたが、動画で保育を視聴することにより、保育者の意図や願いが共有できるようになりました。保育を担任一人で考えるのではなく、「みんなでみんなの保育を考える」という雰囲気になりましたよ！



実践2

幼保連携型
認定ひばりこども園

環境構成による遊びの展開と 子ども同士の関わりについて ～ワールドカフェ形式の工夫～

計画しよう！

○研修テーマ設定の理由 ～現状と課題を洗い出す～

月に2回実施している「わくわく day（3、4、5歳児異年齢保育）」で、異年齢児同士が関わりを持つ姿が見られるようになってきた。この関わりが子どもたちにとって大変有意義であり、「わくわく day」をさらに充実させたいと思い、このテーマを選んだ。そこで、異年齢保育担当職員と話し合いながら、様々な環境を準備し、子どもたちの遊びの様子を探ることにした。また、これらの環境構成について全員で話し合い、共有し、次の計画につなげていくことにした。

○研修の概要 ～研修の計画を立てる～

研修ガイド手法その1（P1）その4（P4）を参考に実施した。今回は正職員のみで午睡の時間に研修を行った。

所要時間 75分	(ねらい) ・「わくわく day（異年齢保育）」の時の様子と日頃の子どもの様子で違う行動を見つける。 ・環境構成のよかった点、改善点を探る。	
時 間	内 容	配 慮 点
事前準備	○3つの遊びの部屋の準備をする。 (体を動かす部屋、影絵遊びの部屋、廃材で自由製作の部屋)	・わくわく day 担当者と計画、準備を行う。
午 前	○3、4、5歳児の担任と一緒に活動しながら、0、1、2歳児の担任は交代で参観し、それぞれ気付いたことなどをメモする。 ※場面 ①	・トランシーバーを使い、各部屋の子どもの様子を連絡し合う。
5分	○アイスブレイクでリラックスをする。	・緊張をほぐし、和やかな雰囲気づくりを心がける。
5分	○バースデーラインで誕生日順に並び、3班に分ける。	・わくわく day 担当職員が、3班に分かれ、それぞれのグループのリーダーになる。
5分	○研修のテーマとねらいを確認し、ワールドカフェ形式の説明を聞く。	・飲み物を用意する。
15分	○話し合い〈ラウンド1〉 ・各班でねらいについて話し合い、模造紙（配置図）に自由に書き込む。 ※場面 ②	・保育環境を示した模造紙を準備する。
15分	○話し合い〈ラウンド2〉 ・リーダーはそのまま残り、他のメンバーはそれぞれ別のテーブルに移動し、新たな班で意見交換をする。	・子どもの様子は青、環境構成については赤のペンで記入できるように、2色のペンを用意する。
15分	○話し合い〈ラウンド3〉 ・ラウンド2と同様に行う。	
10分	○発表 ・はじめの班に戻り、情報を共有した後、まとめた意見を全体で発表する。 ※場面 ③	・模造紙をホワイトボードに貼る。
5分	○振り返り ・各自で今日の研修を振り返る。	・振り返りシートを準備する。

○研修の実際 ～研修を実践する～

実践しよう！

※場面 1 保育者全員で保育参観をする。



〈子どもが影絵遊びを楽しむ様子〉



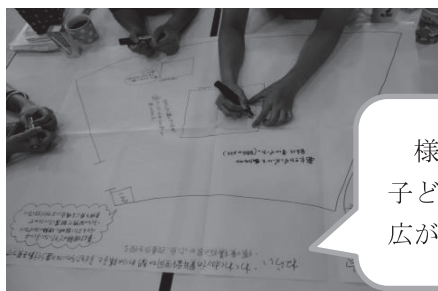
〈保育をしながら子どもを観察している様子〉

保育をしながら、研修のねらいを視点に、子どもを観察することで、午後の協議につながる。

※場面 2 保育研究をする。



〈アイスブレイクを行う様子〉

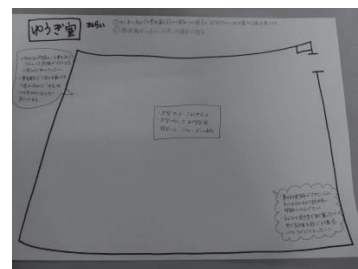


〈今日の保育について配置図に書き込む様子〉

様々な素材があり、子どもたちの発想も広がっていたね。

年上の子が年下の子を気遣いながら遊び、異年齢児ならではの関わりが持っていた。

子どもたちが楽しいと感じることと保育者が感じる危険なこと。その見極めが難しいなあ。



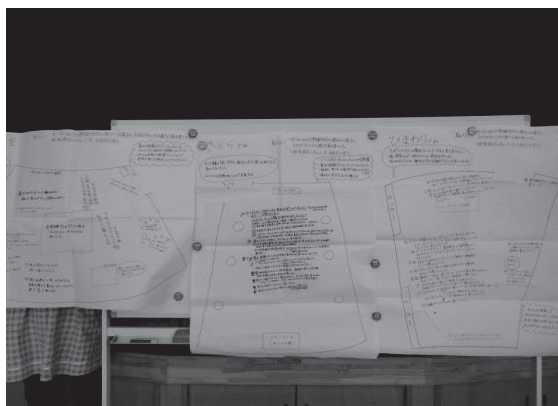
〈保育環境を示した配置図〉

あらかじめ配置図を示しておくことで、子どもの活動の様子がより明確になる。

※場面 3 グループごとに発表する。



〈発表している様子〉



〈全員で共有するために掲示した配置図〉

研修で使用した配置図は、しばらく掲示しておく。また、園内研修の記録として、現物を残したり写真に撮って保存したりする。

○研修の振り返り ～研修で学んだことを整理する～

評価しよう！

自分たちでは気付かなかった子どもの様子や、環境の改善点などが記入されていて参観していた時間以上の活動内容が目に浮かんできた。

(10年経験保育者 2歳児担任)

自分の好きな遊びを見つけ、じっくり遊べる環境が、子どもの豊かな発想につながっていると感じた。

(16年経験保育者 年長担任)

少人数グループでの話し合いは発言しやすく、子ども同士の関わりや育ちを共通理解するよい機会になった。

(11年経験保育者
0歳児担任)

アイスブレイクで緊張がほぐれ、リラックスして楽しく研修を進められた。こんな研修なら気が重くならずに参加できる。

(5年経験保育者
年長担任)

経験年数に関係なく、たくさんの先生の意見を聞くことができ、勉強になった。

(新規採用保育者 年少担任)

〈振り返りシートに記入している様子〉

配置図を囲んでの話し合いで、うまく言葉が見つからない時も、グループの先生が言葉を付け足してくれて助かった。

(6年経験保育者 年中担任)

環境構成の大切さを改めて感じた。子どもが楽しめる環境を作っていきたい！

(30年経験保育者
年中担任)



保育者が気付いた！



- ・子どもの豊かな発想を引き出す保育の在り方
- ・保育の振り返りを踏まえた計画の立て方
- ・子どもの主体性を伸ばす環境構成



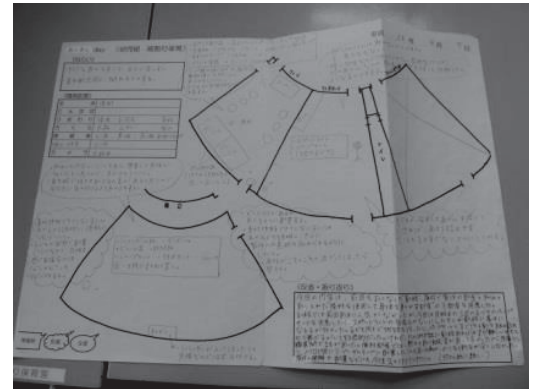
○研修後の改善 ～実際の保育や指導計画に生かす～

指導計画の形式を見直す

活動の計画書を、文章形式のものから配置図形式のものに変えたことで、保育者同士が、ねらい等を共有しやすくなった。また、保育の記録もしやすくなった。

計画の振り返りを踏まえ、次の計画を考える

担当者が計画し、反省点が活かされているかを事前に確認してから打合せ等を行うようにした。



〈新たな指導計画の形式〉

○新たな課題の整理 ～次の計画につなげる～

- 研修のねらいに応じたグループ編成の工夫
今までは、経験年数で班分けをしていたが、コミュニケーションを深めたり、多様な意見を引き出したりするために、研修のねらいに応じて、経験年数に関係ない様々なグループ編成をしていきたい。
- 子どもの主体性を伸ばす環境構成の工夫
園の様々な環境と、材料・素材の組合せ等を再確認し、子どもが自分で考えて伸び伸びと遊べるようになる環境構成を探っていきたい。
- 企画・運営における役割の分担
毎月の研修時に、進行役や記録係、アイスブレイク担当等を決めておき、全員が様々な役割を体験できるようにする。それぞれの立場を経験することで、より充実した園内研修を目指したい。

執筆者から一言！



研修をより深めるためには、雰囲気づくりがとても大切です。「たくさん話して、たくさん笑い、共感する」その保育者間の関係（絆）が、自信につながり、次のよりよい保育へつながると感じました。

園内研修をすると、「次はどうなるだろう？次はこうしてみよう！」と、わくわくしながら保育をすることができるようになりますよ！



実践3 風と緑の認定こども園

子どもの育ちの共通理解と援助 ～各学年の事例を集めて～



○研修テーマ設定の理由 ～現状と課題を洗い出す～

幼保連携型認定こども園の当園では、0～5歳児が園庭や保育室で、遊びを共有する姿が見られる。どの保育者も、一人一人に応じて子どもと関わるができるよう、また、子どもの主体的な活動や遊びを尊重し援助できるよう、0～5歳児のそれぞれの事例を挙げながら、子どもの個性や発達、育ちの共通理解を図りたいと思い、本テーマを設定した。

○研修の概要 ～研修の計画を立てる～

研修ガイド手法その5（P5）を参考に実施した。年度当初に作成した研修計画に基づき、キンダ一部（3～5歳児）・なーさりい部（0～2歳児）の参加できる保育者で実施した。参加できなかった保育者には、各学年で研修内容を伝達した。

所要時間 60分	(ねらい) ・子どもの育ちを理解し、保育者の援助を考える。	
時 間	内 容	配 慮 点
事 前	○各学年で「発達に応じた子どもの姿」の事例をまとめておく。 ○グループ分けをしておく。 ○机に立てる札を作成する。 ○各机に模造紙、付箋紙を準備する。	・いろいろな意見が出るよう経験年数や、担当学年などを考慮し、グループ分けをしておく。 ・研修の終了時間を決めておく。
5分	○研修のねらいを確認する。	・お茶を準備し、リラックスして研修できるようにする。 ・気付いたことなどを、付箋紙に書くことで、思考を「見える化」して発言を引き出す。 ・経験年数が少ない保育者も発言できるように温かい雰囲気をつくる。
10分	○各学年の事例を発表する。 ○事例を基に、気付いたことや、「育ち」のキーワードを付箋紙に書く。	
5分	○キーワードを分類しながら模造紙に貼り、協議するテーマを絞っていく。 ※場面 ①	
20分	○テーマに沿って協議をする。 ※場面 ②	
15分	○グループごとに発表をし、共有する。 ※場面 ③	
5分	○各自で今日の振り返りをする。	

○研修の実際 ～研修を実践する～

※場面 1 付箋紙をグループ分けし、テーマを決める。

各学年の子どもの姿や事例を聞き、気付いたことや「育ち」のキーワードを付箋紙に書く。



〈付箋紙に記入している様子〉



〈テーマを考えている様子〉

付箋紙に書かれたキーワードをグループ分けし、テーマを決める。



〈キーワードを分類した用紙〉

※場面 2 テーマに沿って協議をする。

協議をする中で、保育者が抱える悩みや子どもの発達が見えてきた。

《0、1歳児》乳児の表現

噛みつきたり引っかいたりするのは、自分の思いや気持ちを知らせようとしているのだ。もっと、思いを受け止めていきたい。



〈協議している様子〉

《2歳児》友達との関わり

友達に興味・関心を持ち、遊びを共有する中で、ルールを守り、自制心を養うことができる。友達と関われるような環境を作っていきたい。

《3歳児》遊びの中での学び

砂遊びは、諸感覚を刺激するとともに、友達とのコミュニケーションも高める遊びである。もっと保育に取り入れていきたい。

《4歳児》思いの伝え合い

友達との遊びを楽しむ中で、相手の思いを汲み取ったり、自分の思いを相手に伝えたりするには、どのような環境が適当なのだろう。

《5歳児》自己肯定感

自分でできるのにやろうとしないのはどうしてだろう。できたことへの達成感、満足感を味わうことで、自信にもつなげていきたい。

※場面 3 グループごとに発表し、子どもの育ちを共有する。

テーマに沿って、協議をする中で、それぞれの年齢の発達が分かってきた。



〈発表している様子〉

一つのキーワードから話題が膨らみ、疑問や悩みが出てきたが、意見交換をすることで、解決の糸口が見えてきた。

成長によって見られるトラブルから、子どもの思いを考えることができた。

子どもの成長に合わせた環境設定や保育者の関わり方を十分に話し合い、その内容を園全体で共通にしていかなければならないと思った。

○研修の振り返り ～研修で学んだことを整理する～

評価しよう！

子どもたちが思わず遊びたくなるような環境設定をしています。
(3歳児担任)

キンダー部となーさりい部の連携がとれていない部分に気が付きました。
(0歳児担任)

事例を挙げて、協議ができたことで、それぞれの学年の子どもの育ちが理解できました。
(5歳児担任)

一人一人の育ちを理解し、子どもに合った対応をしていきたいです。
(1歳児担任)

保育者が寄り添ったり一緒に行動したりしながら、子どもの挑戦と一緒に喜び、共感することで自信につなげていきたいです。
(5歳児担任)

子どもの隠れた思いを受け入れながら、相手の思いに気付けるよう優しい言葉で伝えていきたいです。
(2歳児担任)

〈大きな川を作ろう！〉

トラブル場面では、両者の思いを受け入れ、なぜ、こうなってしまったか、どうすればいいのかなどを一緒に考えていこうと思います。
(4歳児担任)

真剣に遊んでいるときは、声をかけず、見守ろうと思います。
(3歳児担任)



保育者が気付いた！



- 発達理解と一人一人に応じた援助の在り方
- 保育者同士の情報の共有
- キンダー部となーさりい部の連携の重要性



○研修後の改善 ～実際の保育や指導計画に生かす～

他学年の年間計画、月案などに目を通し、ねらいを理解して保育をする

各自が、各学年の年間計画に目を通し、ねらい等をあらかじめ把握しておくことにした。日々の子どもの様子と年間計画を照らし合わせながら、その日の保育のねらいを理解した上で子どもと関わるようにした。

0～5歳児の発達を理解し、一人一人に応じた適切な援助を考える

発達段階を理解し、一人一人に応じた援助の内容や方法を常に考えながら子どもに関わった。また、その様子を記録に残し、園全体で共通理解を図るようにした。

他の保育者の意見から、子どもの見方を広げる

定期的に園内研修を実施し、互いの保育観を知り、自分にはなかった子どもの見方に触れ、視野を広げる機会にした。掃除や準備の時間などを使い、日常的に子どもや保育のことについて情報交換できるようにした。

○新たな課題の整理 ～次の計画へつなげる～

- ・ 園の課題の洗い出し

日々、子どもの成長を感じながら、「子どもの主体的な遊びに、保育者はどのように関わっていくか」、「子どもが主体的に遊ぶためにはどのような環境設定をするべきか」など、いろいろな課題が見えてきた。一人一人の保育者の思いを、園全体の課題として取り上げ、園内研修で協議していきたい。

- ・ 指導計画の見直し

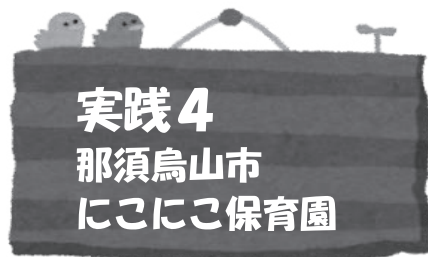
保育の記録を集めて、全員で協議をしながら、内容や文言を検討する時間を設けていきたい。



執筆者から一言！

研修を実施したことで、保育者の相互理解が深まり、保育が充実していくことを実感しました。全員で時間の都合をつけることは、なかなか困難ですが、今後も、工夫をしながら時間を生み出し、効果的な園内研修を実施していきたいと思っています。

また、研修テーマは、保育者同士で意見を出し合いながら決めていくといいですよ！



子どもの育ちを見通して保育を見直す ～小学校との連携～

○研修テーマ設定の理由 ～現状と課題を洗い出す～

子ども一人一人が、伸び伸びと小学校生活をスタートさせるために、幼児期に大切にしなければならない経験とはどのようなものなのか。幼児期から児童期への子どもの育ちを見通した保育について、全職員で共通理解をしたいと思い、小学校教諭を講師に招く研修を考えた。

○研修の概要 ～研修の計画を立てる～

研修ガイド手法その8（P8）を参考に実施した。教育委員会を通して、卒園児が多く入学している小学校に講師を依頼した。全職員が参加できるよう、研修時間は午睡の時間を利用し、前半と後半に職員を分けて同じ内容で実施した。

所要時間 40分 (2回)	(ねらい) ・ 小学校の生活や子どもたちの様子を知り、保育を考える。	
時 間	内 容	配 慮 点
事 前	○市教育委員会を通して講師（小学校教諭）を依頼する。 ・ 研修内容を伝え、日程を調整する。 ・ 園長名で校長宛の依頼文書を作成し送付する。 ○小学校について聞いてみたいことなど、職員にアンケートを取り、園としての質問・課題としてまとめる。 ○講師を招き、5歳児の様子を見てもらう。 ・ 自園の課題や子どもの様子を伝える。 ・ 保育園からの質問事項をまとめた文書を講師に渡す。	・ 依頼の方法については、市教育委員会の指示に従う。 ・ 当日の次第や講話資料、小学校への質問事項など研修資料を作成し、職員に配付しておく。 ・ 保育参観後に話し合いを持ち、子どもの様子等を伝える。
5分	○研修のねらいを確認する。	・ 前半、後半で職員を分けておく。 ・ 保育園の子どもを知ってもらい、共通理解を図るため、市教育委員会就学担当も招く。 ・ 記録者を決めて、研修内容をまとめておく。
25分	○講師（小学校教務主任）による講話を聞く。 ・ 小学校での生活、指導について ※場面 ① ・ 保育園からの質問事項について ※ 講師の用意してきた資料を見ながら行う ・ 就学に向けての話・アドバイス ※場面 ② （小学校教務主任・市教育委員会就学担当）	
10分	○質問や意見交換をする。 ※場面 ③ ○園長総括、謝辞	
事 後	○アンケートをとる。（保育の振り返り、今後の課題など）	

○研修の実際 ～研修を実践する～

実践しよう！

※場面 1 講師(小学校教諭)による講話を聞く。

事前に提出した園からの質問を踏まえた内容の講話だった。



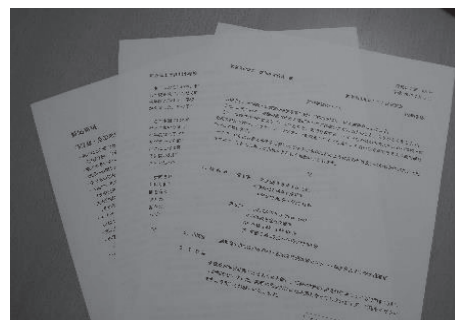
〈真剣に講話を聞いている様子〉



〈講話資料〉

小学校で実際に使っている教科書や日課表、スタートカリキュラム等も見ることができた。

市教育委員会を通して講師を依頼した。



〈小学校への依頼文と質問事項の文書〉

※場面 2 就学に向けてのアドバイスをもらう。

自分の気持ちを言葉で表現できますか？小学校では、言葉でのコミュニケーションが大切です。

幼児期に話を聞く力が身に付いているといいですね！

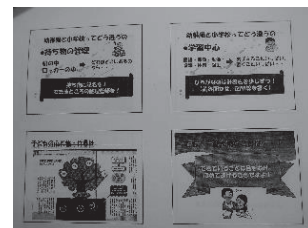
自分の名前が読めると、自分の机やロッカーの場所が分かって、見通しを持って行動できますよ。

幼児期の生活や遊びの場面で、文字や数、図形に関心を持てるといいですね。

小学校ではスタートカリキュラムを基に、子どもを受け入れています。

〈講師がアドバイスをしている様子〉

市教育委員会就学担当から、就学時健康診断や小学校入学時に使用する資料を提供してもらった。



〈保護者への説明資料〉

※場面 3 質問タイム・意見交換（子どもの育ちを見通して）



Q. 文字や数にあまり興味がない子がいるのですが大丈夫ですか？



A. 文字の学習はすぐには始まりません。年長児として頑張ってきた力を認めながら、子どもたちが力を発揮できるよう見守っています。4月は「聞くこと」「話すこと」中心でスタートします。



Q. 言葉でのコミュニケーションが苦手で、周囲が気になり、落ち着かない子がいるのですが？



A. 園との情報交換を基に、個々に対応していきます。45分の授業も変化を持たせながら工夫して行います。



Q. 姿勢が崩れやすい子が多いのですが、入学後いい姿勢で座って授業を受けられるか心配です。



A. 幼児期にたくさん戸外で遊んで、しなやかな体の動きを体得して、姿勢保持ができるようにしてください。

○研修の振り返り ～研修で学んだことを整理する～

評価しよう！

発達を見通して、乳児組でも遊びの中でできることがたくさんあると思いました。積極的に取り入れていきたいです。

(乳児組保育者)

体を使った遊びや戸外遊びが少なかったかも。子どもが楽しみながら体を動かして遊ぶことができるように、遊びの工夫や内容を見直そうと思いました。

(幼児組保育者)

小学校では「聞いて実行する力」が大切だと聞き、指示を出しすぎていたと反省しました。子どもの力を信じて、自ら考えて行動できるようにしていきたいと思います。

(年長担任)

子どもの気になる行動に目が行きがちでしたが、子どもの頑張っている姿に目を向けながら、優しく温かい言葉をたくさん使っていこうと思います。

(幼児組保育者)

就学というと、年長が重要だと思っていたけど、小さいころからの積み重ねが大切だと分かり、乳児期の保育の大切さを感じました。

(乳児組保育者)

〈研修後の振り返りの様子〉

小学校の生活を見通して、時間を意識して行動できるように働きかけたいと思います。また、遊びを通して、自然に文字や数に興味を持てるようにしていきたいと思いました。(年長担任)



保育者が気付いた！



- ・ 発達の連続性を踏まえた保育の充実
- ・ 小学校教育の理解と保育内容の見直し
- ・ 幼小連携の必要性



○研修後の改善 ～実際の保育や指導計画に生かす～

小学校までの発達の連続性を意識して、保育を計画する

異年齢児同士と一緒に散歩に行くなどして、交流をしながら互いの様子を伝え合い、子どもの発達について共通理解を図った。また、他のクラスの遊びを保育者同士で伝え合い、自分のクラスに取り入れるなど、園内でも発達の連続性を意識して保育を計画するようにした。

子どもが言葉を発することを意識して保育をする

遊びや生活の中で、子どもとたくさんおしゃべりをしたり、子どもが発言する機会を増やしたりした。また、乳児組でも子どもへの言葉かけや挨拶を大切にして、丁寧に語りかけるようにした。

戸外遊びや体を使った遊びを意識して保育をする

子どもが自ら体を動かして遊ぶように環境の見直しを始めた。また、保育者が積極的に遊びに参加し、楽しく体を動かす雰囲気づくりをした。

○新たな課題の整理 ～次の計画へつなげる～

- ・ 小学校や教育委員会と連携した園内研修の実施
小学校の生活を見通した保育について、さらに疑問や気になることが出てきたので、小学校や教育委員会と連携をしながら継続して研修を実施したい。
- ・ 「自ら考えて行動できる子」についての園内研修
「指示待ちの子どもにならないようにどのような援助を心がけたらよいか」「『自ら考えて行動できる子』を意識した環境構成や言葉かけ」など、テーマを絞って研修を実施したい。
- ・ 戸外遊びや体を使った遊びの工夫についての園内研修
子どもが楽しく体づくりができるように、年齢や発達に応じた戸外遊びや体を使った遊びの事例、年齢ごとの環境の工夫を園内で研修して共通理解を図りたい。



執筆者から一言！

小学校教諭から、直接、話を聞くことができたので、保育者自身の小学校への疑問や不安が減りました。また、子どもの発達の連続性を意識して保育を見直すきっかけになりました。保育を見直すことで、子どもたちが、小学校への期待を膨らませて、生き生きとした園生活を送ることができるようにしたいです。



実践5

那珂川町立ひばり幼稚園



「生き生きと元気に遊ぶ子」を求めて ～子どもの姿を通した教育課程の見直し～

○研修テーマ設定の理由 ～現状と課題を洗い出す～

昨年、「幼児の発達段階を踏まえた保育『生き生きと元気に遊ぶ子』を求めて」をテーマに、全学年で公開保育をし、保育研究をした。その中で、日案の様式や記録の方法を工夫したり、公開保育を通して他の保育者の意見を参考にしたりして、自分の保育を見直した。

また、園全体で研修をすることにより、保育者一人一人の子どもを見る目が磨かれ、幼児理解が深まったり職員の一体感が生まれたりした。一方で、発達段階を踏まえた環境構成や、3年間を見通した指導の在り方が課題となった。そこで、今年度は、公開保育や保育研究を通して、課題を明らかにしながら教育課程を見直し、さらに教師の資質向上につなげていきたい。

○研修の概要 ～研修の計画を立てる～

年度当初に、研修計画を立て、年間計画に位置付けた。公開保育をした日に、日案検討、保育研究を全職員で行った。各学年で日々の保育や公開保育での気づきを記録しておき、教育課程を見直し、加除修正したものを持ち寄り、8月、12月、2月、3月に全体で照らし合わせた。

園内研修テーマ		「生き生きと元気に遊ぶ子」を求めて ～教育課程の見直し～	
日時・場所	内 容	日時・場所	内 容
4月 職員室	・研修テーマの決定	10月19日 年長組・職員室	・公開保育、日案検討、保育研究 ・各学年で教育課程の見直し
5月18日 職員室	・テーマに迫るための研修方法の検討 ① 基本的な考え方 ② 進め方 ③ その他	11月16日 年中組・職員室	・公開保育、日案検討、保育研究 ・各学年で教育課程の見直し
6月15日 年長組・職員室	・公開保育、日案検討、保育研究 ・各学年で教育課程の見直し ※ ①	12月 職員室	・全員で教育課程の見直し
7月13日 年中組・職員室	・公開保育、日案検討、保育研究 ・各学年で教育課程の見直し	1月18日 年少組・職員室	・公開保育、日案検討、保育研究 ・各学年で教育課程の見直し
8月 職員室	・各種研修会参加報告 ・全員で教育課程の見直し ※ ②	2月15日 職員室	・研修のまとめと反省 ・全員で教育課程の見直し
9月21日 年少組・職員室	・公開保育、日案検討、保育研究 ・各学年で教育課程の見直し	3月15日 職員室	・研修のまとめと反省 ・全員で教育課程の見直し ・次年度研修について

○研修の実際 ～研修を実践する～

※ 1 公開保育・保育研究

6月15日

9:00～14:30 公開保育「生き生きと元気に遊んでいる場面を探そう」

15:30～16:30 保育研究「生き生きと元気に遊ぶための環境構成と保育者の援助」

子どもの興味がある遊びじゃないと、遊びが続かないね。

他の先生の保育を見ると、自分の保育を客観的に見直すことができますね。

☆工夫した点☆

- ・公開保育は交代で保育をしながら全員が見られるようにする。
- ・保育研究は時間を決めて行う。
- ・全員が意見を出せる雰囲気をつくる。

子どもの遊びが広がり深まったりするよう環境の再構成は難しいなあ。

今日の反省を踏まえて明日につなげていくことが大切ですね。

〈保育を参観している様子〉



※ 2 公開保育を基にした全職員での教育課程の見直し

8月 検討日は決まっていたが、それにこだわらず、時間が取れるときに話し合った。

15:30～16:30 教育課程の見直し

公開保育で気付いた点や修正した点を基に、各クラスで見直していた所を持ち寄って、全職員で検討していく。

6月15日の子どもの姿から、教育課程を見てみましょう。

この文言には、こんな思いもあったのね。

実際の子どもの姿と教育課程の文言がつながってきました。

☆工夫した点☆

- ・毎日の日案に、気付いた点を記入しておく。
- ・個人記録をとる。
- ・各クラスで実施する公開保育から、気付いた点などを記録しておく。

教育要領と照らし合わせてみるのが大切ですね。

教育課程を意識すると、保育の計画の見通しが持てますね。

〈教育課程を検討している様子〉



○研修の振り返り ～研修で学んだことを整理する～

評価しよう！

3 歳児



〈しゃもじは、ぼくのお気に入り！〉

4 歳児



〈まねっこ大好き！！〉

5 歳児



〈縫うって、むずかしい〜〉

年齢が低ければ低いほど、保育者の言葉かけ、関わり方で育ちが違ってくるがよく分かりました。

これからは、保育者も環境の一部であることを意識して、保育をしようと思います。

(3 歳児担任)

公開保育後の保育研究で他の先生方からアドバイスをもらうことで、これまでの保育の悩みが解消されました。また、教育課程と照らし合わせることで、子どもの育ちに見通しが持てました。日々の保育の積み重ねが大切であることがよく分かりました。

(新規採用 4 歳児担任)

他の先生に子どもの実際の姿を見てもらうことで、発達に応じた環境づくりや今後の保育について、様々なアイデアをもらうことができました。また、その視点で教育課程を見直すことで、3年間の育ちを見通して、教育内容を検討することができました。

(5 歳児担任)



保育者が気付いた！



- 教育課程の見直しの必要性
- 教育課程に基づく保育の模索と工夫
- 3年間の発達を見通した指導の在り方



○研修後の改善 ～実際の保育や指導計画に生かす～

教育課程の文言を全職員で修正する

公開保育と保育研究の成果を基に、全職員で教育課程の再確認をし、実際に文言を付け足したり修正したりした。5歳児は、小学校を意識して「自信と責任を持って行動し、集団の中で一人一人が自分の持っている力を十分に発揮して遊ぶ」を「小学校に期待を持ち自信と責任を持って行動する」に修正し、4歳児は、発表会に向けてのねらいと仲間意識を育む内容を追加した。

記録を指導計画の改善に生かす

「今日の子どもの姿」、「保育の反省」、「明日の子どもの姿の予想」をペンの色を変えて記録することで、明日の保育を充実させることにつながっていった。さらに、日案の様式を変えたことで、PDCA が実践しやすくなった。

一人一人が教育課程を意識して保育を実践し、報告し合う

教育課程を意識することで、子どもの育ちを見通して、保育を計画することができるようになった。また、教育課程を子どもの実態に合わせて見直したので、保育者全員が子どもの育ちについて共通の認識を持てるようになり、保育者の一体感が生まれ、それぞれの保育に対する相互理解を深めることができた。

○新たな課題の整理 ～次の計画へつなげる～

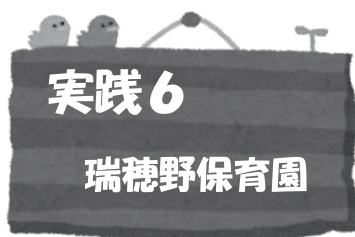
- 教育課程の実施と検証
見直した教育課程に沿って、保育を展開し、その検証を行っていく。
- 保育のPDCA の確立
保育の充実を図るために、日々の保育のPDCA がとても大切である。記録を基にしながら、定期的に日案や週案の見直しを丁寧に行い、PDCA サイクルを確立させたい。
- 園の課題の共通理解
幼児教育の喫緊の課題を常に意識し、それを視点に、園の課題として保育を見直し、教育課程に反映させていく。



執筆者から一言！

年間のテーマを決めて、年間計画に位置付けて、園内研修を行ったことで、確実に時間を確保することができました。また、全員で教育課程を見直したので、一人一人が、3年間の子どもの発達を見通すことができたのではないかと思います。

公開保育のときは、公開する保育者にねぎらいの言葉をかける、よいところを見つけるなどの温かい配慮を忘れてはいけません。その温かい園の雰囲気が、保育者一人一人のやる気につながりました！



発達に応じた教育環境を整える ～園の教育課題の解決～

○研修テーマ設定の理由 ～現状と課題を洗い出す～

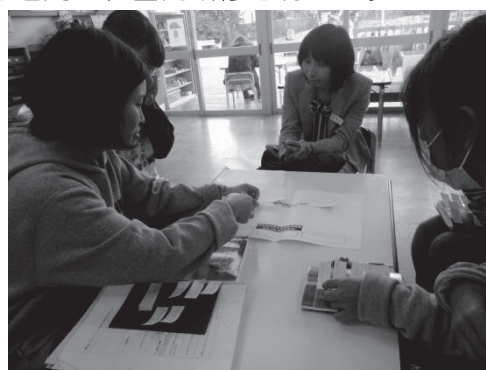
0歳から就学前の子どもたちが、共に生活する中で、一人一人が自分の興味や好奇心に合わせて、遊びを自主的に選ぶことのできる保育を提供するにはどうしたらよいのか、今までの保育者の関わり方や保育環境について園全体で振り返ることにした。振り返りの中で、園の課題を新たに見つけ、職員全員で課題を共有し、解決できるように研修を企画してきた。共通の課題を見つけて、継続的に研修を実施し、保育をしていく日々が、自然と保育者間のコミュニケーションを増やし、子どもの笑顔につながるのではないかと考えた。

○研修の概要 ～研修の計画を立てる～

3年間継続して、園内研修を行い、教育環境を整えた。

※「幼児教育センター園内研修サポートプログラム」を活用し、園内研修を行った。

- 午前中
 - ・研究保育
- 午後（午睡の時間を利用して）
 - ・保育研究
 - ・研修テーマに沿ったグループ協議
 - ・まとめ
 - ・振り返り
 - ・課題の明確化→次の研修につなげる



〈グループ協議の様子〉

・1年目「研修テーマ：一人一人の発達の理解と援助の方法」 ※ ①

子ども一人一人の発達を理解し、子どもが安心感と信頼感を持って活動できるように、保育者の関わり方について研修していく。また主体的に環境に関わり、自己発揮できる環境を整える。

・2年目「研修テーマ：子どもの育ちを支える環境」 ※ ②

子ども自らが環境に関わり、自発的に活動し、様々な経験を積んでいくことができるよう配慮する。また、異年齢児保育を通して、安心感と信頼感を持って活動できるようにする。年上の子は年下の子をいたわり、年下の子は年上の子に憧れや尊敬を持って、共に助け合い、信頼し合い、思いやる心が育つことを願って、育ち合う生活を大切にする。

・3年目「研修テーマ：遊びが広がる素材とは」 ※ ③

一人で遊ぶ楽しみだけでなく、友達と力を合わせて助け合いながら活動し、充実感を味わう。他児と関わる環境の一つとして「玩具」に注目し、子どもが自発的、意欲的に関わることをできるようにする。

○研修の実際 ～研修を実践する～

※ 1 一人一人の発達の理解と援助の方法

★活動：「戸外遊び」

環境構成や保育者の願い	園内研修での意見や新たな課題
・自分でやりたい遊びを見つけ、保育者や友達と触れ合って遊ぶ楽しさを味わってほしい。 ・環境に関わって生まれる子どもの活動を予想した。年齢ごとに園庭を広々と使って、好きな遊びが楽しめるよう、環境について考える。	<意見> ・環境を生かした遊びを取り入れ、一人一人を大切に保育しているが、保育者が環境を整えすぎている。子ども自身が考えて遊ぶきっかけや自己発揮できる機会を奪ってしまっている。今後は、子ども同士の関わりが増え、子どもが自分で考えて、遊びを広げることができる環境をつくっていききたい。 <課題> 子どもが自ら遊びたくなる発達に応じた環境づくりが課題となった。



〈大きな山を作るぞ！〉

※ 2 子どもの育ちを支える環境

★活動：3歳児～5歳児 異年齢児保育「製作」

環境構成や保育者の願い	園内研修での意見や新たな課題
・異年齢保育ならではの子どもの姿を予想し、関わりが生まれるように環境を整える。 ・それぞれの発達に応じて保育者が関わり方を変える。	<意見> ・子どもの育ちを支える環境のポイントとして、子どもの力を信じる、見通しを持った環境づくり、保育者の七変化の共通理解を図った。また、異年齢児保育ならではの大切にしたい子どもの姿として、思いやる、憧れ、真似る、クラスの絆、トラブルの仲立ちなどの意見もあった。 <課題> それぞれの保育者が気付いた子どもの姿を付箋紙に書くことで、各年齢の保育の大切なポイントがまとまった。しかし、発達に応じた遊具や玩具の種類や数、提示するタイミングが課題となった。

※ 3 遊びが広がる素材 ～年齢に適した玩具の数とは～

★活動：「自然物や廃材を使って遊ぶ」

環境構成や保育者の願い	園内研修での意見や新たな課題
・あらかじめ、子どもの遊びを予測し、自然物や廃材を用意しておく。 ・最初から素材を出しておくのではなく、子どもの思いに沿って、タイミングを見計らいながら、素材を増やす。	<意見> ・自然物を使って、ごっこ遊びをしたり、さらに遊びを発展させ、素材を組み合わせでお面やベルトを作ったりする姿が見られた。子どもは、自分で素材を選ぶことによって、関心を持って遊びに取り組み、考えたり、試したり、工夫したりして遊びを進めることができる。 ・同じ素材を使いながらも、年齢により遊び方に変化が見られ、発達に応じて適した素材があることに気付いた。素材の内容や数、提示するタイミングにより子どもの姿は大きく変化することが分かった。 <課題> 引き続き、保育のねらいに適した教材研究について明らかにしたい。



〈レストランに変身！〉

○研修の振り返り ～研修で学んだことを整理する～

- ・ 3年間の研修を踏まえて、それぞれの気づきを整理する

★1年目

保育者が環境を全て整えてしまうことにより、子どもの考える力や発想を奪ってしまっているのではないかな。

★2年目

保育者は子どもの力を信じて、「ねらい」を達成させる環境を準備しなければならない。また、保育者も環境の一部であることを意識する。

★3年目

「玩具」に注目。提示の仕方や数によって、子どもの姿が変化する。子どもの年齢や保育のねらいにより、保育者の見極めが重要である。

子どもの心を動かす環境がつくれたときって最高だよな。

(16年目保育者
幼児クラス)

保育者の予想をはるかに超える子どもの発想力には驚いたな。

(6年目保育者
年長担当)

手出し、口出しをしないで、「見守る」「待つ」ことは大切ですね。

(2年目保育者 2歳児担当)

廃材だって立派な教材！それぞれに遊び方が変化しておもしろいね。

(5年目保育者 年少担当)

〈保育を振り返る様子〉



保育者が気付いた！



- ・ 保育への自信と挑戦意欲
- ・ 保育のねらいと内容の共通理解
- ・ 互いに学び、高め合う同僚性のよさ



○研修後の改善 ～実際の保育や指導計画に生かす～

発達に応じた教育環境について整理する

3年間の研修の成果として、子どもの発達に応じた教育環境とはどのようなものかを改めて整理した。

- ☆ 園が楽しい！
「明日は〇〇をして遊ぶんだ！」と期待が持てたり自分で遊びを選択できたりする環境
- ☆ やってみたい！
試す、工夫する、頑張ろうとする気持ちを育てる環境
- ☆ どうして？
興味を持ったことを試したり、自分なりの疑問を解決したりするなど試行錯誤できる環境
- ☆ みんなといっしょに
友達と関わり、友達のよさに気付くことのできる環境
- ☆ 自分で作ったよ
自信を持ち、自己表現のできる環境
- ☆ なにか おもしろそうだな
友達と共通のイメージや目的意識を持って遊ぶことができる環境

○新たな課題の整理 ～次の計画へつなげる～

・ さらなる教材研究

自分たちの保育を見直すところから始まり、3年目の今では、教材研究という具体的な研究内容にして、日々考察を進めている。この年齢には〇個の玩具提供が必要だと結論を出したいわけではない。例えば、玩具も、どのような目的で、どのように提供するのが望ましいのか、ねらいを達成すべき適当な数であるのか、考えることができる保育者でありたい。

学び合う環境が保育者の質を向上させ、子どもたちの成長へとつながる。今後も学び合うことを意識し、遊びが広がる教材研究を進めていきたい。

・ 研究の発信

3年間の研究を一覧表にまとめることで、職員全体で研修の成果を共通理解することができる。また、保護者や小学校などに向けても園の教育内容をアピールしていくことができる。



執筆者から一言！

子どもたちは、「今日はこれをして遊ぶ！」と、具体的な楽しみや目的を持って登園するようになりました。好奇心や探究心が大きく育ち、自ら遊びを選択して、遊び込めるようになったと思います。

保育者も、子どもと一緒に遊びを楽しんでいます。園内研修で、保育を語り合うことって楽しいですよ！



研修効果を感じるとき・・・

「園内研修は、副園長である自分抜きではあり得ない！」と思っていたが、研修が活発になると保育者同士で楽しそうに語り合っていることが多くなり、入る隙間がないなあと思う今日この頃……。淋しいようなうれしいような・・・。

(小倉 庸寛)

子ども同士の異年齢の関わりが増え、自由に遊びながらたくさんのかことを学んでいることがよく分かります。子どもたちが安全に安心して生活できる環境について共通理解を図ることができたので、職員同士の連絡がスムーズになりました。

(高橋 麻由)

不安から始まった研究委員でしたが、園内研修の進め方や雰囲気づくりを工夫しているうちに、研修のコーディネートが楽しくなりました。他の園の研修の方法などを学ぶことも、とても参考になりました。

(佐藤 尚巳)

講師をしてくださった小学校の先生が保育園に来ると、子どもたちは「あ、小学校の先生～」と言って手を振ります。園内研修に、何度も足を運んでいただいたことが、子どもたちにとっても大切な連携になっていたんですね。

(深津 幸子)

「やってみたい！」という意欲を持って活動する子が増えました。それに応えるために話し合いながら悪戦苦闘をする先生たち。意欲満々の子どもたちも、子どもたちの笑顔のためにがんばる先生たちも、毎日、キラキラ輝いています。

(大根田 かおり)

あっという間の3年間でした。当たり前になっていた保育を見直すことで、さらに進化した保育になりました。研修を重ねるごとに、経験年数を問わず、互いの保育の環境について意見を出し合うことができるようになりました。職員みんなが同じ目標に向かっていけるって楽しいですよ！

(永山 真紀)

平成２８年度 幼児教育調査研究委員会

【 委 員 】 （敬称略・五十音順）

大根田 かおり	幼保連携型認定ひばりこども園
小倉 庸寛	認定こども園愛泉幼稚園
佐藤 尚巳	那珂川町立ひばり幼稚園
高橋 麻由	風と緑の認定こども園
永山 真紀	瑞穂野保育園
深津 幸子	那須烏山市にこにこ保育園

※所属等は平成２９年３月現在のものです。

【 事務局 】

栃木県教育委員会事務局学校教育課

栃木県総合教育センター研究調査部

栃木県総合教育センター幼児教育部



園内研修実践事例集

－「自分たちでできる研修ガイド」を活用して－

平成29年3月発行

栃木県総合教育センター幼児教育部

栃木県幼児教育センター

〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町 1070

TEL 028-665-7215 FAX 028-665-7216

URL <http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/youji>